



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
コード番号 9601 URL <https://www.shochiku.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 敏弘
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績（2024年3月1日～2024年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	59,420	△4.9	74	△96.0	△4,196	—	△1,018	—
2024年2月期第3四半期	62,464	8.5	1,848	—	847	△26.8	2,505	△60.0

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 △2,020百万円 (—%) 2024年2月期第3四半期 4,578百万円 (△34.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	△74.10	—
2024年2月期第3四半期	182.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年2月期第3四半期	206,720	92,057	44.5	6,691.69
2024年2月期	211,140	94,466	44.7	6,868.61

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 91,955百万円 2024年2月期 94,367百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2025年2月期	—	0.00	—	—	—
2025年2月期（予想）	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	82,400	△3.5	△940	—	△4,940	—	△1,870	—	△136.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期3Q	13,937,857株	2024年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	196,055株	2024年2月期	198,877株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年2月期3Q	13,740,847株	2024年2月期3Q	13,738,347株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についての注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、インバウンド需要の拡大や雇用・所得環境の改善等により個人消費が増加したことで、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、資源価格の高騰や為替変動による物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めて参りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高59,420百万円(前年同期比4.9%減)、営業利益74百万円(前年同期比96.0%減)、経常損失4,196百万円(前年同期は経常利益847百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失1,018百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益2,505百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、邦画9作品、洋画6作品、アニメ7作品、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、松竹ブロードウェイシネマ等、多様な作品を公開しました。「九十歳。何がめでたい」はシニア層を中心に、「あのコはだあれ?」「Mrs. GREEN APPLE // The White Lounge in CINEMA」は10代から30代を中心に、お客様の支持を集め、興行収入10億円を越えるヒット作となりました。2024年1月公開の「機動戦士ガンダムSEED FREEDOM」は、特別版上映を開始し、興行収入50億円を超える大ヒットとなりました。

興行は、邦画では「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」が興行収入100億円を超え、「変な家」「キングダム 大將軍の帰還」「ラストマイル」、洋画では「インサイド・ヘッド2」が大ヒットとなりました。なお、当期は売店部門の強化に注力しており、収益に貢献しました。映画館は、㈱松竹マルチプレックスシアターズが出資し共同運営する「T・ジョイ エミテラス所沢」が9月にオープンし、また、昨年の台風被害で休館していたMOVIX八尾が、11月にリニューアルオープンしました。

テレビ制作は、地上波にて連続ドラマ「Grosの女 スクープという名の狂気」、BS放送にて時代劇「広重ぶるう」「無用庵隠居修行8」、連続ドラマ「めんつゆひとり飯2」「雲霧仁左衛門ファイナル」、CSチャンネルにて「鬼平犯科帳」2作品を制作いたしました。

DVD・ブルーレイディスク販売は、「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」「ブルーアーカイブ The Animation」「おまえの罪を自白しろ」「シネマ歌舞伎 月刀剣乱舞 月刀剣縁桐」等を発売し好調に推移しました。

配信は、「おまえの罪を自白しろ」をAmazon Prime Videoで独占配信し、売上に大きく貢献しました。「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」は、4月にU-NEXTで都度課金サービスにて先行独占配信、8月にAmazon Prime Videoで定額見放題サービス独占配信を実施し、大きな話題となりました。テレビ放映権販売では、4月からBSテレ東で「釣りバカ日誌」全作品の4K版を半年にわたって放送しました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング㈱において、未パッケージ・未配信の映画作品を始め、80~90年代のコンサート映像や、ミュージカルなど複数のジャンルの編成し、新規契約者を獲得しました。引き続きケーブルテレビ局への導入営業を強化し、利益の確保を目指してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は30,200百万円(前年同期比8.1%減)、セグメント損失は548百万円(前年同期はセグメント利益1,433百万円)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、9月の「秀山祭九月大歌舞伎」、10月の「錦秋十月大歌舞伎」では、新作歌舞伎から古典歌舞伎まで幅広い演目で、好成績を収めました。11月は、舞台機構改修に伴い、「ようこそ歌舞伎座へ」を上演、初めて歌舞伎をご覧になるお客様や、インバウンドのお客様も楽しんでいただけるプログラムを提供し、歌舞伎観劇層の裾野を広げることが出来ました。

新橋演舞場は、4月の「祭 GALA」、5月の「トンカツロック」、6月の東京喜劇 熱海五郎一座公演、9月の「MASSARA」、10月の「劇走江戸鴉〜チャリンコ傾奇組〜」、11月の「舟木一夫シアターコンサート in 新橋演舞場」が好成績を収め、3月のスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」、7月の「七夕喜劇まつり」、8月のOSK日本歌劇団「レビュー 夏のおどり」「カルメン故郷に帰る」、11月の「有頂天家族」も大変好評を博しました。

大阪松竹座は、3月の「おいでよ! ミナミ笑店街」、4月のOSK日本歌劇団「レビュー 春のおどり」、5月の「トンカツロック」、10月の「市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名披露 八代目市川新之助初舞台 十月大歌舞伎」、11月の「劇走江戸鴉〜チャリンコ傾奇組〜」等が好成績を収めました。また、8月の「関西ジュニア サマバケ 2024」も大変好評を得ました。

南座は、3月に「三月花形歌舞伎」、6月の「坂東玉三郎特別公演」、8月の坂東玉三郎演出「星列車で行こう」、9月の「九月花形歌舞伎 発刊30周年記念 あらしのよるに」、10月の「錦秋喜劇特別公演」が収益に貢献し

ました。

その他の公演は、9月の日生劇場「ミュージカル『三銃士』」が高収益を上げました。

巡業は、11月の公文協松竹大歌舞伎巡業におきまして、中村錦之助、中村隼人の親子共演が話題となり、各地盛況となりました。

シネマ歌舞伎は、9月に「連獅子／らくだ」、10月に「め組の喧嘩」、11月に「人情噺文七元結」の旧作を「月イチ歌舞伎2024」として上映し、各作品とも堅調な形で推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は17,128百万円（前年同期比6.2%減）、セグメント損失は1,169百万円（前年同期はセグメント損失891百万円）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸は、入居テナントとの綿密なコミュニケーションと良好な関係構築に努めることで、歌舞伎座タワーや銀座松竹スクエア等主要物件の高稼働により安定収益を確保しました。また、収益向上を目指した資産入れ替えの施策として新規取得した銀座2丁目松竹ビル・同ANNEXも高稼働となりました。中長期戦略である東銀座エリアマネジメント活動は、一般社団法人とまちづくり推進協議会に賛同・入会いただく企業も増え、街の賑わい創出イベントを開催する等、地域貢献とエリアの価値向上のための取り組みを一層強化しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,438百万円（前年同期比7.0%増）、セグメント利益は4,553百万円（同9.2%増）となりました。

（その他）

各事業でのオンラインによる商品販売や、人気シリーズ作品・コア層向けの商品開発・販売を主軸に展開しました。また、新規事業領域における事業展開については、コストを抑制しつつも、これまでにない企画やコンテンツ開発に注力し、他業種企業との新しい取り組みや基盤づくりを進めました。

劇場プログラムおよびキャラクター商品は、「機動戦士ガンダムSEED FREEDOM」「Mrs. GREEN APPLE // The White Lounge in CINEMA」「赤羽骨子のボディガード」等の作品を中心に収益に貢献しました。

ホラーコンテンツ「松竹お化け屋本舗」は、ゲームプラットフォーム「フォートナイト」にてオリジナルマップ「呪園」をプロデュースし、4月と5月にリアルイベントを企画・制作しました。また、イベント事業では、7月に丸の内ピカデリー100周年記念「浪漫活弁シネマ～映画『青春の夢いまいづこ』篇～」を開催して話題となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,653百万円（前年同期比4.1%増）、セグメント損失は320百万円（前年同期はセグメント損失438百万円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4,419百万円減少し、206,720百万円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2,010百万円減少し、114,663百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,409百万円減少し、92,057百万円となりました。これは主に、利益剰余金、その他有価証券評価差額金が減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、2024年10月11日付「2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を変更しております。詳細は、本日発表の「通期業績予想（連結・個別）の修正及び特別利益、特別損失の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,195	19,069
受取手形、売掛金及び契約資産	10,714	6,898
商品及び製品	1,783	1,689
仕掛品	4,155	6,932
原材料及び貯蔵品	117	113
その他	5,181	4,245
貸倒引当金	△4	△15
流動資産合計	42,142	38,932
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,353	37,822
設備（純額）	11,919	12,302
土地	52,011	52,471
その他（純額）	4,716	5,637
有形固定資産合計	108,001	108,234
無形固定資産		
その他	1,954	1,987
無形固定資産合計	1,954	1,987
投資その他の資産		
投資有価証券	40,852	39,441
退職給付に係る資産	185	393
その他	18,098	17,953
貸倒引当金	△93	△221
投資その他の資産合計	59,042	57,566
固定資産合計	168,998	167,788
資産合計	211,140	206,720

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,501	6,510
短期借入金	4,871	5,521
1年内返済予定の長期借入金	18,971	14,623
未払法人税等	1,146	422
賞与引当金	553	225
その他	9,472	10,809
流動負債合計	43,516	38,112
固定負債		
長期借入金	45,335	48,329
役員退職慰労引当金	239	52
退職給付に係る負債	1,854	1,873
資産除去債務	5,229	5,285
その他	20,498	21,009
固定負債合計	73,158	76,551
負債合計	116,674	114,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,187	30,191
利益剰余金	16,178	14,746
自己株式	△1,447	△1,425
株主資本合計	77,938	76,531
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,739	15,717
為替換算調整勘定	△63	△63
退職給付に係る調整累計額	△246	△229
その他の包括利益累計額合計	16,429	15,424
非支配株主持分	98	101
純資産合計	94,466	92,057
負債純資産合計	211,140	206,720

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
売上高	62,464	59,420
売上原価	36,401	34,252
売上総利益	26,063	25,168
販売費及び一般管理費	24,215	25,093
営業利益	1,848	74
営業外収益		
受取利息	13	9
受取配当金	423	541
雇用調整助成金	5	—
補助金収入	72	—
その他	140	137
営業外収益合計	655	689
営業外費用		
支払利息	412	594
借入手数料	151	84
持分法による投資損失	977	4,158
その他	114	122
営業外費用合計	1,656	4,960
経常利益又は経常損失(△)	847	△4,196
特別利益		
投資有価証券売却益	2,884	4,002
事業譲渡益	200	—
受取補償金	505	4,317
資産除去債務戻入益	—	361
特別利益合計	3,589	8,682
特別損失		
固定資産除却損	40	26
災害による損失	604	110
減損損失	46	44
違約金	29	—
訴訟損失引当金繰入額	192	—
固定資産圧縮損	—	3,607
劇場閉鎖損失	—	87
投資有価証券評価損	—	27
投資有価証券売却損	—	7
特別損失合計	913	3,912
税金等調整前四半期純利益	3,524	573
法人税、住民税及び事業税	991	755
法人税等調整額	3	832
法人税等合計	995	1,588
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,528	△1,015
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	2
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,505	△1,018

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,528	△1,015
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,003	△1,024
退職給付に係る調整額	43	16
持分法適用会社に対する持分相当額	2	3
その他の包括利益合計	2,049	△1,005
四半期包括利益	4,578	△2,020
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,555	△2,023
非支配株主に係る四半期包括利益	22	2

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2024年3月1日 至 2024年11月30日）
減価償却費	3,449百万円	3,543百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	32,859	18,258	9,757	1,588	62,464	—	62,464
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	88	121	1,449	83	1,741	△1,741	—
計	32,948	18,379	11,206	1,671	64,206	△1,741	62,464
セグメント利益又は 損失(△)	1,433	△891	4,169	△438	4,273	△2,424	1,848

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,424百万円には、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,426百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

演劇事業において、連結子会社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、回収可能価額を零として、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては46百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	30,200	17,128	10,438	1,653	59,420	—	59,420
セグメント間の内部売上高又は振替高	158	99	1,413	79	1,751	△1,751	—
計	30,358	17,228	11,852	1,733	61,171	△1,751	59,420
セグメント利益又は損失(△)	△548	△1,169	4,553	△320	2,514	△2,440	74

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,440百万円には、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,441百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」において、用途変更の意思決定に伴い除却を予定している当社保有の資産について、回収可能価額を見直した結果、回収可能価額を零として、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結会計期間においては44百万円であります。